

令和4年度（2022年度）新規研究課題

課題番号：R4-05

課題名：高品質な酒米の安定生産、供給を可能とするデータクラウドシステムの構築

研究期間：令和4年～令和6年（2022年～2024年）

研究担当：農業技術部土地利用作物研究室

1 研究の背景

山口県産の日本酒の需要量拡大に合わせて原料となる酒米の安定生産、高品質化を図るため、農林総合技術センターでは低層リモートセンシング技術を用いて目標とする酒米の収量、品質を確保するための生育診断技術を確立した。しかし、現時点では技術を普及に移せていない。

2 目的

農林総合技術センターで開発した、高品質酒米「山田錦」の生育診断に関するデータを含む種々のデータを、クラウド環境で一括管理し、生産者等がワンストップで生産に関する技術・情報を最大限活用できる環境を整備する。

3 研究内容

(1) 生育診断技術の開発

県内の「山田錦」産地にレーザー式生育センサを固定で設置し、計測で得た生育情報と、農業用気象情報システム、生育ステージ予測システムを連携させたシステムを開発する。各生育段階において、適正な穂肥施用時期、施用量を判断できるシステムを開発することで、栽培経験値の低い生産者でも一定の品質・収量を確保することを可能とする。

(2) クラウド実装に向けた環境整備

生育ステージ予測システムや、各産地から得た各種データをクラウド環境に移行するための技術面、運用面、セキュリティ面等の検証・実装を行う。

生産者や酒造会社が場所を選ばずにクラウドサーバを通じてリアルタイムな情報や技術支援を受けることができるようになる。

4 研究のポイント

ア 当センターで確立したレーザー式生育センサを利用した低層リモートセンシングによる生育診断技術を普及に移し県内の酒米の高品質化、安定生産を可能とする。

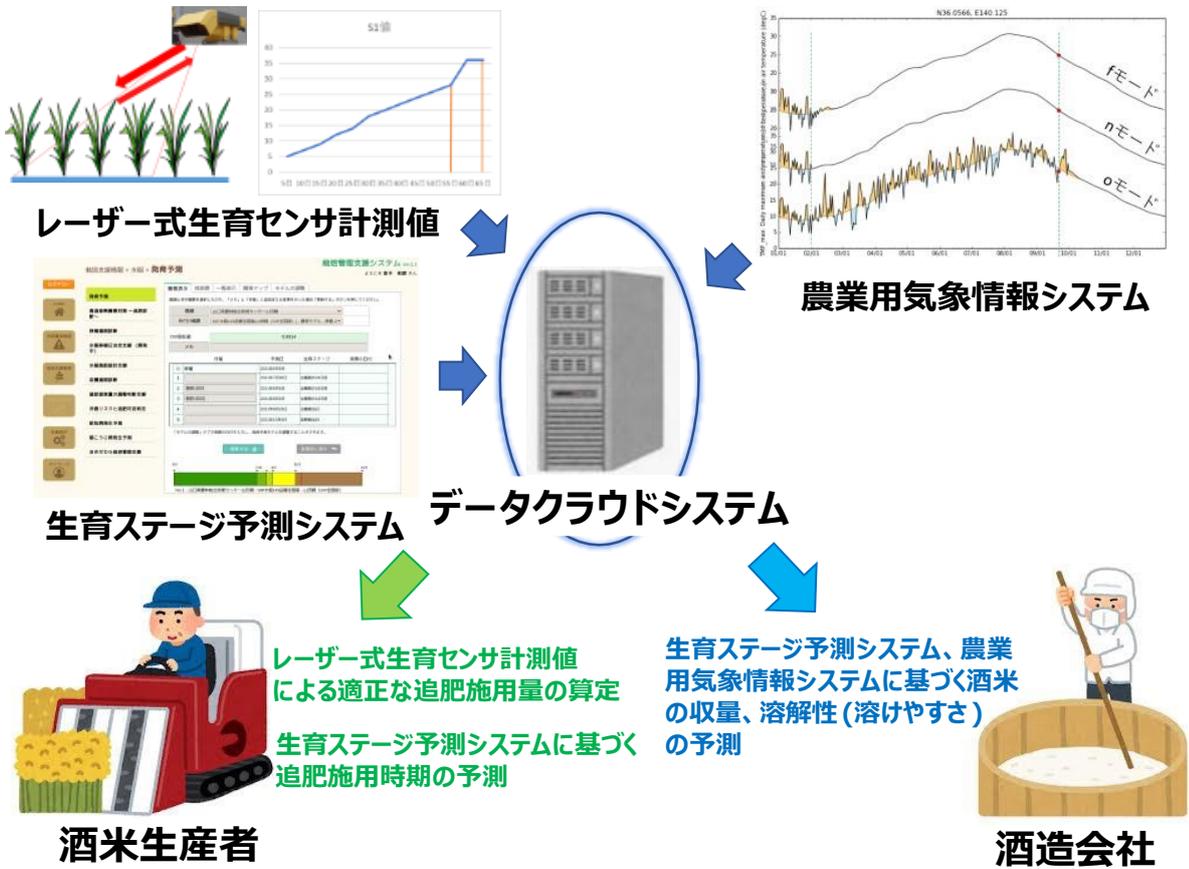
イ 各種システムのクラウド実装により県内酒造会社の高品質な日本酒の安定生産に寄与する。

脚注 リモートセンシング技術：直接触ることなく調査、計測する技術

レーザー式生育センサ：レーザー光を照射して植物から反射される異なる波長の光を測定し、センサ値として出力する機器

クラウド：ユーザーがインフラやソフトウェアを持たなくても、インターネット上で必要に応じてサービスを利用できる仕組み

高品質な酒米の安定生産、供給を可能とするデータクラウドシステムの構築



高品質な酒米の安定生産

高品質な日本酒の安定製造